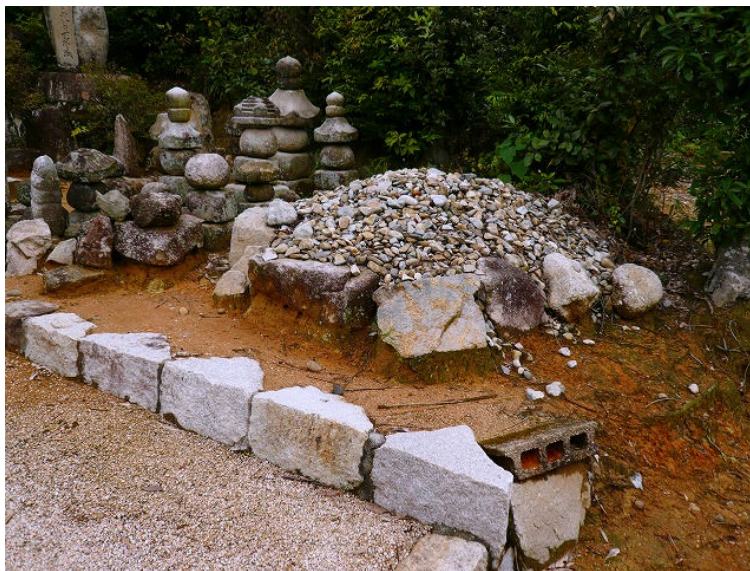


古墳跡



後谷古墳跡

後谷古墳跡

後谷古墳跡は、福田の神田山にあります。神田山は、西山から舌状に伸びた丘陵で、その中ほどに神田神社宮司の宮之首家の墓所があり、その墓の付近から、古墳が発掘されています。

これは、昭和九年から十年頃にかけて、現在の広島大学で、当時の広島文理科大学の黒住教授が学生と一緒に発掘に來られ、出土品は、大学の研究室に持ち帰られました。この時に発掘された土器の破片の一部は現在、宮之首家に保存されています。また、この古墳の出土の位置は、掘り出された石が雑然と積まれており、古墳の形状は消滅していますが、昭和二十一年から二十二年頃、備後府中の府中中学校の先生が、そして、昭和四十九年頃には、広島県教育委員会の人達が、この出土位置を確認しています。

この後谷古墳は、横穴式石室で後期古墳と思われる、当時の人々の生活は、弥生式文化時代から古墳時代への推移の間であって徐々に向上しつつあったと考えられます。その具体的な内容については三世紀ごろの中国の魏ぎの国の著述とされている「魏志倭人伝ぎしわじんでん」によってその概要を知るしか方法がありません。それに出てくる「邪馬台国やまたいこく」が大和説・九州説と未だ決着を見ていませんが、いずれにしても、その中間に位置する広島の福田、その福田地区も銅器（銅鐸・銅劍・銅戈）が出土し、古代から人々の営みがあり、考古学的にも多くの興味を満載した地域であるといえます。